
第 31 報 平成 24 年 2 月 13 日

東日本大震災 災害復旧資材供給情報

復旧・復興工事に関わる 建設資材等の需給動向

財団法人 経済調査会

【ストレートアスファルト】

関東地区において稼動している出荷可能な製油所・基地は、JX の根岸製油所、鹿島製油所、昭和シェル横浜基地の計 3 箇所となっていたが、コスモ石油が 2 月 3 日より、1 油種（針入度 80-100）の出荷を再開した。

【仮設鋼材 賃貸料金（鋼矢板・H形鋼・鋼製山留材・鋼製覆工板）】

震災需要等への荷動きが活発化しており、東北、関東地区を中心に、需給ひっ迫感は非常に強い。

各賃貸業者は、現状では西日本の各社工場から不足材料を供給しているもよう。一部賃貸業者で保有量の積み増しや、減少した償却材を補填する動きが見られ始めたものの、いまだに震災需要の全体量が把握できないことなどから在庫補充の動き限定的で、年度末にかけて需給はタイトなまま推移する見通し。

【鉄鋼製品、生コン、アスファルト合材工場の稼動状況について】

当会ホームページの「災害復旧資材の供給情報提供窓口」では、被災地への資材供給に関わる鉄鋼製品、生コン、アスファルト合材各工場の稼動状況が一目で分かる地図を掲載しています。稼動状況に変更があれば、随時、情報を更新してまいりますので、併せてご覧ください。

※ 災害復旧資材の供給情報窓口 <http://www.zai-keicho.or.jp/fukkyu/index.php>

【問い合わせ先】 財団法人 経済調査会 土木第一部・土木第二部
TEL : 03-3543-1471 FAX : 03-3543-2182

【ストレートアスファルト供給情報】

①製油所の状況について

2012/2/9確認

製油所・工場名		所在地	稼動状況	出荷状況		備考
				陸上出荷	海上出荷	
JX日鉱日石 エネルギー	仙台製油所	宮城県	×	○	×	11月7日より油槽所機能として一部出荷を再開。生産再開は3月を目標に計画。
	鹿島製油所	茨城県	○	○	○	通常通り出荷。
	根岸製油所	神奈川県	○	○	○	通常通り出荷。
コスモ石油	千葉製油所	千葉県	×	○	×	2月3日より一油種(針入度80-100)の陸上出荷を再開。
	四日市製油所	三重県	○	○	○	通常通り出荷。
	堺製油所	大阪府	—	—	—	2010年3月より生産停止。 (燃料油は生産・出荷中)
	坂出製油所	香川県	○	○	○	通常通り出荷。
昭和シェル	東亜石油(株) 扇町工場	神奈川県	—	—	—	2011/8/11をもって、陸上、海上出荷ともに出荷を終了。また、同日より横浜アスファルト基地から陸上出荷開始。
	昭和四日市石油(株) 四日市製油所	三重県	○	○	○	通常通り出荷。
	西部石油(株) 山口製油所	山口県	○	○	○	通常通り出荷。

※稼動状況:工場が製造を継続している場合は「○」、稼動していない場合は「×」で表示。

※出荷状況:出荷している場合は「○」、出荷していない場合は「×」で表示。

②その他(今後懸念される事項等)

2011年8月11日に昭和シェル扇町工場が出荷を終了したことで、関東地区において稼動している製油所は、JXの根岸製油所、鹿島製油所の2箇所となった。代わって昭和シェルでは8月11日より横浜基地から出荷を開始。また、コスモ石油千葉製油所では、2月3日より一油種(針入度80-100)の出荷を再開した。現時点では、関東地区での供給は安定している。また、生産拠点・油槽所の多くが被災した東北地区太平洋岸でも、出荷を再開した油槽所や出荷再開に一定のめどがあった拠点はありますが、依然として供給余力は大きくない。

関東地区・東北地区とも、西日本や北海道の製油所からの海上輸送による供給を余儀なくされており、海象条件の厳しい冬期を迎え、海上輸送が滞り油槽所の在庫が不足することが懸念されている。さらに、年度末の需要期を控えるなかで、陸上輸送用のローリ車の不足も懸念されるなど、東日本で急激な需要増への対応が困難な状況は、当面続く見通し。アスファルトの安定供給・確保を図るうえでは、これまで以上に的確な需要予測が不可欠とみられる。

【ストレートアスファルト供給情報】

③各県(地域)への供給状況について

2012/2/9確認

地区	都道府県名	供給動向				価格動向		
		供給可否	運搬車両	運搬経路	備考	現状	先行き	変動要因
北海道	北海道	○	○	○		横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
東北地区	青森県	△	△	△		横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
	岩手県	△	△	△		横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
	宮城県	△	△	△	11月7日よりJX仙台が油槽所として出荷再開。3月から生産再開予定。	横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
	秋田県	△	△	△		横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
	山形県	△	△	△		横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
	福島県	△	△	△		横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
関東地区	茨城県	○	△	○	6月3日鹿島石油から出荷再開。	横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
	栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨・長野	○	△	○	コスモ石油千葉製油所では、2月3日から80-100の出荷を再開。	横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
北陸地区	新潟・富山・石川・福井	○	△	○	新潟県内の車両は不足状態。	横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
中部地区	静岡・愛知・岐阜・三重	○	○	○		横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
近畿地区	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山	○	○	○		横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
中国地区	岡山・広島・山口・鳥取・島根	○	○	○		横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
四国地区	香川・愛媛・徳島・高知	○	○	○		横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
九州地区	福岡・佐賀・長崎・大分・熊本・宮崎・鹿児島	○	○	○		横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。
	沖縄県	○	○	○		横ばい	横ばい	原油価格は、乱高下しているものの、コスト増もあり価格は横ばい。

※供給状況:供給できる場合は「○」、供給できない場合は「×」で表示。

※運搬車両:ローリー車が充足している場合は「○」、一部、運搬車両不足により供給が遅れることがある場合は△、運搬車両の手当てが出来ないまたは、運搬ルートが確保できない場合は「×」で表示。

※運搬経路:震災前までに行っていた運搬ルートに変更が無い場合は「○」、運搬ルートに変更がある地域が一部生じている場合は「△」、運搬ルートの変更を余儀なくされている地域がほとんどの場合は「×」で表示。

④その他(今後懸念される事項、他地区とは異なる価格動向等)

東北地区については、製油所、油槽所の被災により運搬経路が震災前と異なる状況にあり、運搬コストが増大している地域がある。これによるコスト増分も販売価格に転嫁し、価格交渉が行われている。
供給面においては、東北地区におけるローリー車が増加したものの、引き続き、供給拠点の減少により、需要が集中した場合の製造、物流を懸念する声(特に東日本)は多い。年度末の需要期を迎えており、スト・アスの安定供給のためには、より正確な出荷計画を立てる必要があるとしている。

【アスファルト混合物供給情報】

①各県(地域)への供給状況について

2012/2/9確認

地区	都道府県	出荷状況	供給動向			備考	価格動向		
			燃料 工場設備	燃料 運搬車両	運搬車両		現状	先行き	変動要因
北海道	北海道	前年並以上	○	○	○		横ばい	横ばい	
東北地区	青森県	減少	○	○	○		横ばい	横ばい	
	岩手県	前年並以上	○	○	○		横ばい	横ばい	
	宮城県	前年並以上	○	○	△	ガレキ処理などで、運搬車両が手当てしづらい状況が続いており、需要期のダンプ不足が懸念されている。	横ばい	横ばい	
	秋田県	減少	○	○	○		横ばい	横ばい	
	山形県	減少	○	○	○		横ばい	横ばい	
	福島県	前年並以上	○	○	○	退避指示により稼働していないプラントが2工場ある。	横ばい	横ばい	
関東地区	茨城県	前年並以上	○	○	○		横ばい	横ばい	
	栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨・長野	前年並以上	○	○	○		横ばい	横ばい	
北陸地区	新潟・富山・石川・福井	減少	○	○	○		横ばい	横ばい	
中部地区	静岡・愛知・岐阜・三重	減少	○	○	○		横ばい	横ばい	
近畿地区	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山	減少	○	○	○		横ばい	横ばい	
中国地区	岡山・広島・山口・鳥取・島根	減少	○	○	○		横ばい、一部地区で弱含み	横ばい	広島県の一部地区では、需要減少による受注競争により、市況下落
四国地区	香川・愛媛・徳島・高知	減少	○	○	○		横ばい	横ばい	
九州地区	福岡・佐賀・長崎・大分・熊本・宮崎・鹿児島	減少	○	○	○		横ばい	横ばい	
	沖縄県	減少	○	○	○		横ばい	横ばい	

※出荷状況:前年並み・前年以上に出荷がある場合(対前年95%以上)は「前年並以上」、前年より出荷が少ない場合(対前年80~95%)は「減少」、前年より出荷が少ない場合(対前年80%未満)は「大幅減」で表示。

※燃料(工場設備):工場設備の稼働に対するエネルギーが充足している場合は「○」、一部、不足することが生じる場合は「△」、不足することが多い場合は「×」で表示。

※燃料(運搬車両):主に軽油が充足している場合は「○」、一部、不足することが生じる場合は「△」、不足することが多い場合は「×」で表示。

※運搬車両:混合物出荷のためのダンプトラックが充足している場合は「○」、一部、手当てしづらい日が生じている場合は「△」、十分に手当てできない状態の日が多い場合は「×」で表示。

②その他(今後懸念される事項、他地区とは異なる価格動向等)

出荷量は中部以西においても前年水準に近づいてきているものの、依然として低調な水準で推移している。現在まで、ストアス、燃料について供給が滞るなどの問題は生じていないが、年度末の需要期を控え、需要集中によるアスファルトおよびアスファルト混合物輸送のローリーやダンプの不足を懸念する声が上がっている。製造側ではこれまで以上に国・県・市町村など各発注機関と需給情報を共有し、安定供給を図りたいとしている。

【改質アスファルト供給情報】

①製造拠点(工場等)の状況について

2012/2/9確認

工場名		所在地	稼働状況	出荷状況	備考
日進化成	東北工場	岩手県	○	○	稼働中。スト・アス入荷に若干の難有り。
	関東工場	埼玉県	○	○	通常稼働中。
ニチレキ	青森工場	青森県	○	○	通常稼働中。
	仙台工場	宮城県	○	○	通常稼働中。
	千葉工場	千葉県	○	○	通常稼働中。
東亜道路	青森工場	青森県	○	○	震災前の状況に戻っている。
	岩手工場	岩手県	○	○	震災前の状況に戻っている。
	宮城工場	宮城県	○	○	ほぼ震災前の状況に戻っている。
	福島工場	福島県	○	○	震災前の状況に戻っている。
	茨城工場	茨城県	○	○	震災前の状況に戻っている。
	群馬工場	群馬県	○	○	震災前の状況に戻っている。
	千葉工場	千葉県	○	○	震災前の状況に戻っている。
	神奈川工場	神奈川県	○	○	震災前の状況に戻っている。
	長野工場	長野県	○	○	震災前の状況に戻っている。
昭和シェル	瀝青化学 袖ヶ浦工場	千葉県	○	○	設備稼働に問題なし。
	三重プラント	三重県	○	○	設備稼働に問題なし。

※稼働状況:工場が製造を継続している場合は「○」、稼働していない場合は「×」で表示。

※出荷状況:出荷している場合は「○」、出荷していない場合は「×」、燃料、原材料がなく出荷できない場合は「△」で表示。

②その他(今後懸念される事項等)

--

東日本大震災 復旧・復興工事における主な資材の概況 月刊「積算資料」掲載品(一般資材)

分類①	分類②	積算資料 掲載ページ	品名	確認日	供給体制・需給動向	先行き	
						需給動向	価格動向
共通資材	型枠材	210 ～ 211	コンクリート 型枠用合板	2月7日	復旧関連工事を中心に需要が見られ、荷動きは好調。港における荷降ろしも支障は生じておらず、供給体制は平常どおりとなっている。	均衡	弱含み
共通資材	木材	226 ～ 229	仮設・土木用 木材	2月7日	復旧・復興工事向けの引き合いは見られているものの、本格的な需要までには至っていない。現時点で供給能力に問題はなく、材料の供給体制は安定している。	均衡	横ばい
共通資材	木材	230 ～ 237	一般建築用 木材	2月7日	住宅の新築・補修向け需要を中心として荷動きは好調。しかしながら、大工職人の不足により工事の進捗遅れが見られ、その影響から、結果的に現時点での材料の供給体制そのものに支障は生じていない状況。	均衡	横ばい
土木資材	軽仮設資材	254(販売) 278(リース)	仮設足場	2月7日	東北地区では東日本大震災復興工事向けの引き合いが増えてきたものの、現時点では供給能力に問題はない。 被災地以外の供給は平常どおり。	ややひっ迫	横ばい
土木資材	軽仮設資材	260 264	ブルーシート 土のう	2月7日	ブルーシート、土のうとも東日本大震災後、メーカー、販売店は在庫を積み増しており、供給能力に問題はない。	均衡	横ばい
共通資材	各種 賃貸料金	265 ～ 273	建設機械器具 賃貸料金	2月7日	道路復旧作業が進んでおり、徐々に工事の発注量は増えてきている。道路状況の改善もあり、資材・産廃運搬等のためのダンプトラックの需要は依然多く、他県からの搬入も見られる。 一方、発動発電機の引き合いは減少傾向にあり、需要は落ち着きを見せている。その他の建設機械・器具についても、2月に入って、全国大手事業所の新規購入がすすんだこと、震災向け機械の返却が増加したことなどにより、需給は均衡を保っている。	均衡	横ばい

東日本大震災 復旧・復興工事における主な資材の概況 月刊「積算資料」掲載品(一般資材)

分類①	分類②	積算資料 掲載ページ	品名	確認日	供給体制・需給動向	先行き	
						需給動向	価格動向
共通資材	各種 賃貸料金	274 ～ 277	仮設鋼材 賃貸料金	2月10日	<p>【鋼矢板・H形鋼・鋼製山留材・鋼製覆工板】 東北、関東地区を中心に下期物件および震災需要への荷動きが活発化しており、需給ひっ迫感は非常に強い。 各賃貸業者は、需要低迷を背景に従前から在庫量を圧縮してきており、いまだに震災需要の全体量が把握できないことから、大勢に在庫補充する動きは見られず、現状では西日本の各社工場から不足材料を供給しているもよう。一部賃貸業者で保有量の増加や、減少した償却材を補填する動きが見られ始めたが、年度末にかけて、このまま需給はタイトなまま推移しよう。</p> <p>【敷き鉄板】 出遅れていた上期発注物件に加え、震災復旧工事の発注も集中したため出荷が急増しており、需給はひっ迫している。賃貸業者に在庫量を積み増す動きは見られず、当面、ひっ迫した状況は続く見通し。</p>	ひっ迫	強含み横ばい
建築資材	内外装材	572	針葉樹 構造用合板	1月25日	被災した工場は、事業停止となった2工場を除いて稼働を再開しており、生産量も平常時に近づきつつある。 納期が3週間程度必要であった長尺品についても、被災工場生産を再開しており、ほぼ平常どおりの供給が可能となっている。	均衡	横ばい
電気設備資材	電線・ケーブル	612 ～ 613	600V 架橋ポリエチレン 絶縁ビニル シースケーブル(CV)	2月7日	東日本大震災被災地区における復興需要の引き合い増加を受け、メーカー・販売店とも即応体制の強化に注力している。供給体制については、現時点では問題無く、平常どおりの供給が可能となっている。	均衡	横ばい
機械設備資材	配管資材	782	硬質ポリ塩化 ビニル管	2月7日	下水関連で荷動きがあるものの、震災復興関連の本格的な需要はまだ先であり、いまのところ供給体制に問題はみられない。	均衡	強含み